

海に道具を作ります。落好などにかかっては寿命がちぢまるだけです。
 用済ませましたか？ さあ、避難しましょう！

避難時の服装例

水中メガネか
 なければ
 スキー用ゴーグルで。

ビニールの雨がっぱで
 全身を包む

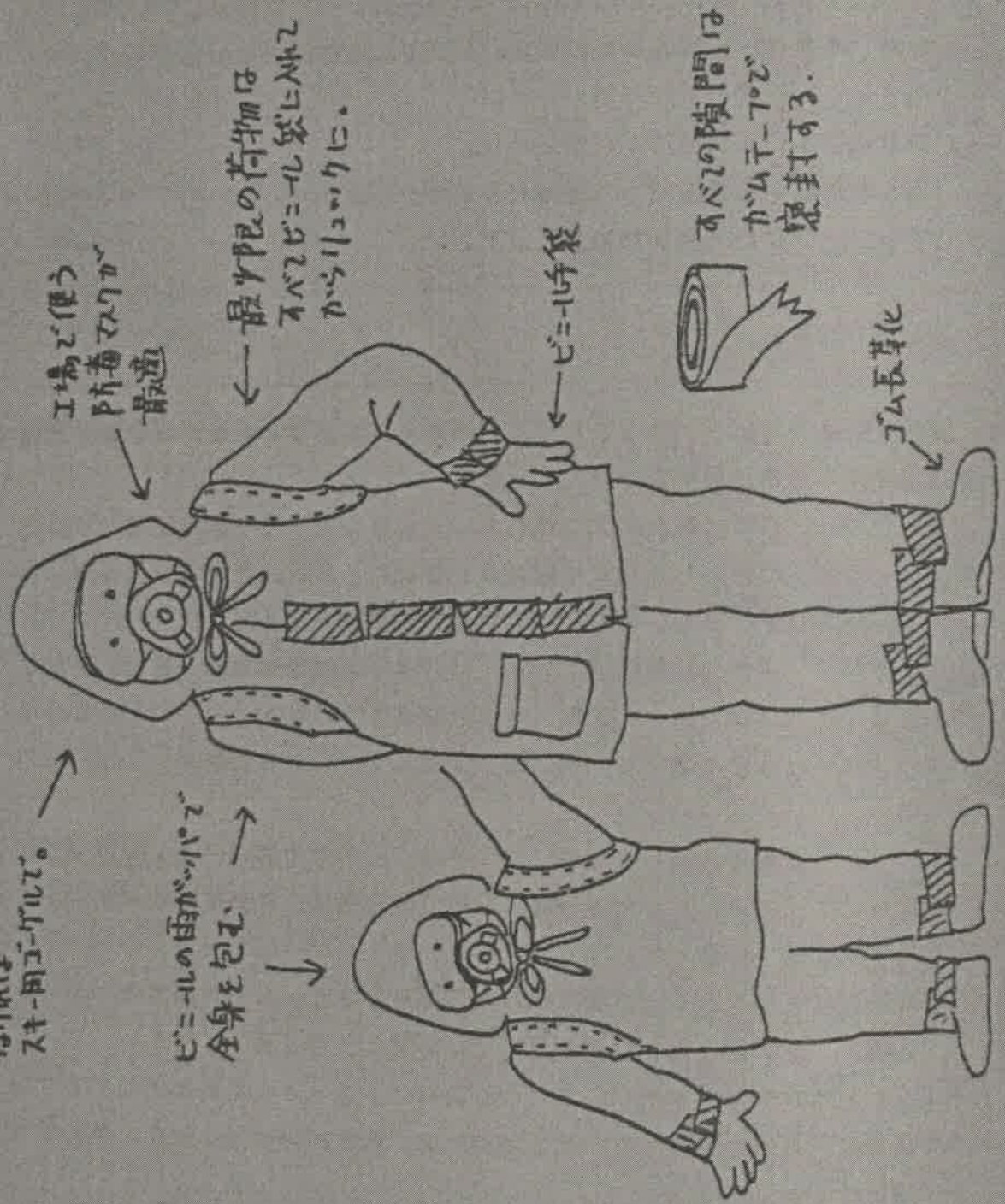
工場ど便う
 防毒マスクが
 最適

← 最少限の荷物は
 ビニール袋に入れて
 からリュックに。

← ビニール袋

穴の隙間は
 ガムテープで
 塞封する。

← ゴム長草化



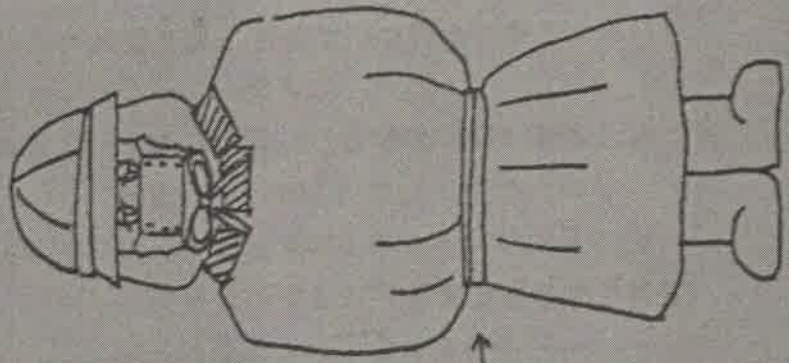
男

マスクの下にハニカ子と
 1.5cmほど入ゆると効果的。
 (かまのマスクも用巻しよう)



女

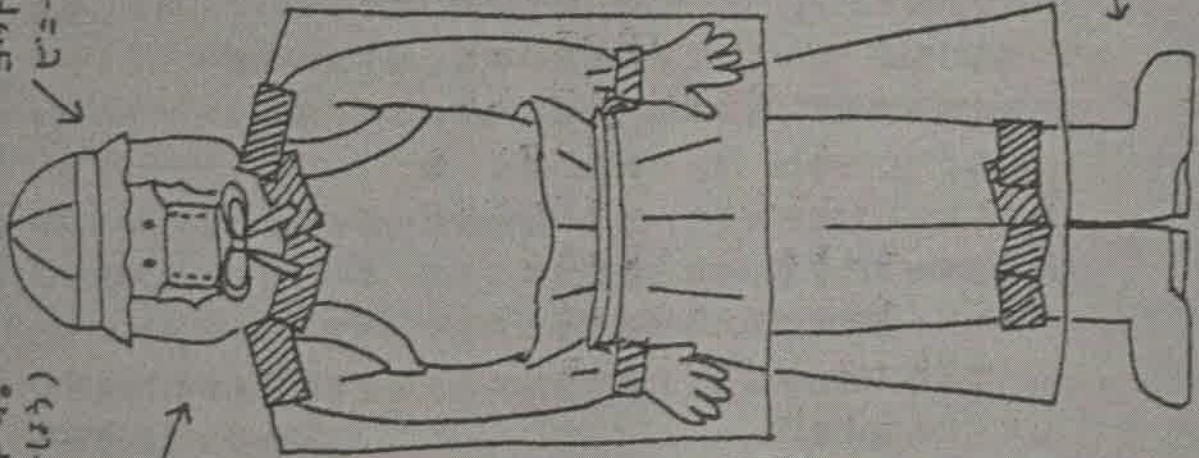
ビニールのゴミ袋2枚で
 イースタート顔がツリパの
 虫果エリ。



小さい子供にも
 ビニール袋と
 かがせよう。

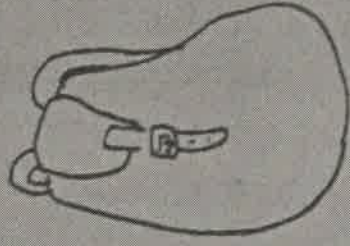
肩の裏やひざ
 中と肘をもつて
 肘等の部分で
 しぼろう。

ヨットパーカー
 ビニール巾着まで。

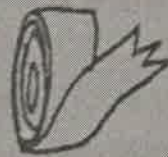


長い髪は子どめに
 ビニールのラップで
 密封しよう。

最少限の荷物は
 可成りビニール袋に
 入けてからリュックに。



ビニール葎



本ページの扉裏面は
 ガムテープで
 密封する

長じつ

逃げる方向を決定する

1. 避難する場合の原則は、次の3つです。

- (1)放射能の少ない方向に逃げる
- (2)事故炉から遠ざかる
- (3)風上に向かって逃げる

2. 天候状態による判断

実際には、道路、線路などの地理的制約から、原則通りにはいきません。ただし、事故炉から数キロ以内以外は、放射能は風に乗ってくるのです。ですから天候でずいぶん放射能量は変わってきます。

(1)自分が風上なら、一時的に近づいても良い場合

快晴の場合、曇っていても雲の高い場合、風が強い場合

(2)事故炉周辺に放射能が漂い、近づいてはいけない場合

どんよりした晴れ、雨、雲が低い曇り、霧

(3)どんよりした天気の場合、窪地に放射能がたまりやすい

(4)事故炉のそばを通過して来た雲は危険

こういう雲の下には入らないようにする

上空の風は地上とは違う方向に吹いている場合もありますから注意

(5)風下には逃げない

(6)風上に逃げられないときは、風と直角方向に逃げる

3. 有料道路は動きが取れなくなる可能性があるので危険です。

避難手段を決定する

初期に事故に気付いた場合には、まだ避難も本格化していないので、自動車による避難も可能でしょう。ただし、車の場合はいったん道路が閉鎖された場合には、全く身動きができなくなってしまいます。ですから、少しでも早く公共交通機関に乗り換えるほうが良いと思います。

既に回り中の人達が避難に取り掛かり、町中が騒然としてきたような段階で

は、車、電車とも絶望的でしょう。そこら中が大混雑、大混乱におちいり、検問や交通規制ですぐに身動きが取れなくなるでしょう。この段階で、唯一役に立つと考えられるのは、自転車やバイクなどのパーソナルな移動手段と自分の足だけでしょう。

歩いて逃げる場合も走ったりしてはいけません。呼吸量が多くなって、たくさんの放射性物質を体中に取り込んでしまうし、結局遠くまで逃げられないからです。

1. 原発（事故炉）の至近距離にいる場合

とにかく空間線量が高いので、できる限り車で少しでも離れます。自らの脚で走ってはいけません。空気の消費量が増え内部被曝が増えてしまいます。

2. 道路が渋滞していたり、検問で車が通れない場合

オートバイか自転車しかありません。自転車での避難は予想以上に有効かもしれませんが。ただし、あまり急ぐと呼吸量が増え、被曝量が増えてしまいます。

3. 天気が悪い場合（雨、雪、霧のとき）は車がベターです。

4. 車で避難する場合は、窓、通風口は全て塞ぎます。また、車を放棄しなければいけない場合に備え、歩く場合の荷物をまとめておきましょう。車を捨てる場合は、ドアをロックせず、必ずキーをつけたままにして下さい。

5. 避難手段は一長一短

| 避難手段 | (速度) | (リスク、備考) |
|-------|---------|-------------------|
| 自動車 | 早い | 道路の渋滞、遮断で動けなくなる |
| 電車 | 早い | 駅に人が殺到、パニックの恐れあり |
| オートバイ | 早い、自由 | 空気にさらされるので吸入量が増える |
| 自転車 | まあ早い、自由 | 検問を通過できる可能性が高い |
| 徒歩 | 遅い | 走った場合、吸入量が増える |

避難時の持ち物チェックリスト（身につけるもの以外）

次の持ち物を必ず背中に背負って避難してください。リュックサックのようなものがないときは、ショルダーバックを使ってください。持ち物は、必ず防水して下さい。バッグが防水の場合でもさらにビニール袋に包むなどして水がしみこまないようにして下さい。濡れた物はすべて廃棄することになります。

1. 生き延びるために

■逃げ方を決める道具

- ラジオ
- 天気図（一番新しい新聞から切りとる）
- 地図
- 磁石
- 放射線測定器

■放射能を防ぐために

- ヨウ素剤
- マスクの替え
- 傘
- 交換用の雨具
- 着替え一式をビニール袋に入れたもの
- ガムテープ

■被曝を最小限にするために

- 非常用食料（最低2 - 3日分）
- 持てるだけの水
- ハサミ・カミソリ

2. 生活のために

■行動の自由を確保するために

- マッチ
- 缶切
- ナイフ
- 簡単な食器

懐中電灯

■ 日常必要なもの

筆記用具

預金通帳、印鑑などの貴重品

常用薬

タオル、洗面具

■ 貴重品

電話、自動販売機を使うための小銭

お金（あるだけ）

保険証

免許証

3. あれば役に立つもの

大きなシート

大きなビニール袋

水

救急薬品

放射能測定器、ラジオ、懐中電灯の予備の電池

4. 二度と戻ってこれない場合に備えて（事故所から50km以内）

自分にとって非常に大切なもの

記念品

アルバム、写真など

住所録

5. あなたの大切なものを書いておきましょう

雨が降ってきたときに

放射能は、雨と共に降ってきます。ですから、基本的には雨に濡れないことが第一です。ただし、事故炉の近くにいるときはそうも言ってもらえませんから、とにかく速くへ逃げます。雨水が染み込んでしまったものは全て廃棄してください。

■事故炉から20km以内にいる場合

雨にかまっている余裕はありません。とにかく避難します。風向きと反対側もしくは直角に逃げます。【20】の「避難時の服装」に従って、出来る限り雨に濡れないようにしてください。荷物は最小限にし、必ずビニール袋などで防水します。

雨ガッパ、および着替えを必ずもう一組持って行きます。最初の休憩時に必ず着替えをしてください。

■事故炉から20-50kmの場合

大事故（チェルノブイリクラス）の場合はとにかく少しでも離れなければなりません。「20キロ以内の場合」に従ってください。

小規模の事故の場合は雨に濡れる方が危険です。

【33】Ⅳを読んで、家の中に入る放射性物質を少しでも防ぐようにしてください。ただし、事故が拡大する場合にそなえ、情報収集を続けてください。

■事故炉から50-150kmの場合

基本的には屋内に避難して、【33】Ⅳを読んで、家の中に入る放射性物質を少しでも防ぐようにしてください。避難の途中の場合にも【29】「休憩、睡眠の前に」を読んで必要な処置を取ってください。

事故の規模によってはこの距離でも避難の必要があります。雨がやんだらすぐに避難できるように、準備をしておきましょう。

■事故炉から150km以上の場合

雨の中を避難する方が危険です。屋内で雨がやむのを待ちましょう。避難途中の場合は【29】「休憩、睡眠の前に」を読んで必要な処置を行いましょう。